



四中だより

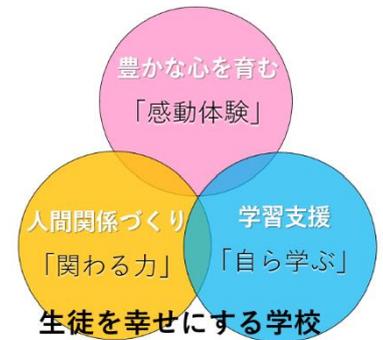
令和4年 4月 8日
荒川区立第四中学校
学校だより 4月号

本年度のスタートにあたり

校長 稲葉 裕之

4月7日(木)、第75回入学式が行われ、93名の新入生が入学しました。これにより、本日より本年度の3つの学年の生徒が揃い、令和4年度の第四中学校がスタートしました。現在、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、私たちの日常生活は大きな影響を受け、学校教育においても、これまでの教育活動が、中止や延期などの様々な制限を受けています。このため、今後の学校運営についても、保護者、地域の皆様にご理解・ご協力いただくことも多々あるかと存じますが、何卒よろしくお願い致します。

さて、年度のはじめに際し、本年の本校の教育について、入学式の式辞を抜萃し、お伝えいたします。



* * * * *

ご入学おめでとうございます。私には、皆さんの中学校生活がこうあってほしいという願い、思いがあります。それは、皆さんの”幸せ”です。皆さんには、今この時を明るく楽しく、豊かなものにして、中学校生活を幸せに過ごしてもらいたい。しかし、それだけでなく、中学校を卒業してからも幸せであってほしい。行った先の高校で、行った先の職場で、その社会の一員としてしっかりとやっていってほしいのです。そうした”将来の幸せ”のために、義務教育最後となるこの3年間は、社会でやって行く力を、社会で通用する力を身につける場でもあります。そのためにも、これからの中学校生活を充実したものにしていきましょう。

さて、そうした充実した中学校生活にしていくために、心掛けてほしい2つのことをお話します。

一つは「自ら学ぶ」ということです。みなさんは、一人一人それぞれの良さ、限りない可能性を持っています。しかし、それも磨くことを怠れば、埋もれていってしまいます。それを伸ばすためには、まず自分から物事に進んで取り組むことが大切です。自分から学ぶ、体験から学ぶ、さらに、人との交わりを通じて学ぶことで確かな学力を、そして、生涯にわたって通用する、そうした「自ら学ぶ」姿勢を身につけてほしいと思います。二つ目は、人と関わるということです。人は誰も夢や希望、そして悩みを持っています。また、それぞれに個性があります。その上で、共に同じこの社会の中で生活をしています。ですから、自分だけのことを考えていては、うまくいくはずありません。他の人を認め、互いに支え合うことが大切なのです。今、この世界情勢の中で求められているのは、まさにそうしたことではないでしょうか。そして、それは、小さな社会ともいえる学校にもいえることです。誰かが困ったり、悩んだりした時、周りにいる友達が、思いやりの心を持ち、助け励ますことができれば、どんなに素晴らしいことでしょう。「自ら学ぶ」こと、思いやりを持って人と「関わる」こと、この2つを心にとめ、中学校生活を輝くものにしていってください。

最後に、四中では、「挨拶」を大切にしています。それは、礼儀としてだけでなく、人と関わっていくうえで必要なことであり、それを身につけることは、将来の幸せにつながる、と考えるからです。今日から新しい仲間と新たな生活をスタートさせる皆さんにとって、「挨拶」は、新しい環境での関わりをつくる最高の言葉となることでしょう。さっそくやってみてください。

* * * * *

裏面に本年度の学校経営方針についても示させていただきますので、ご一読ください。今年一年間、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。